

官情報第一六五號

秘

秘

秘

昭和十五年六月二十一日 警視廳官房主事

大和俱樂部、集會、關スル件

標記大和俱樂部、在リテ、ハ本月十八日午後七時ヨリ
豊島区目白町四ノ四一 候爵徳川義親邸ニ於テ

情報部長

徳川義親、狩野、三、外三名
集合、九時二十分、散會セルガ其ノ會談内容、
付徳川義親候ノ談左記ノ通りナリ

歐亞局長

徳川義親談

本日大和俱樂部ノ者ガ八名位来タ、話題ハ強力
新党問題ト佛印、蘭印問題ニ就テ、アワタ
新党ハ出来ル迄、衛生ハ必ズ生ル勿論、僕等ノ望
ムモノハ、既成政党ノミデナク、總ニル方面ヲ網羅

シタ、強力新党デナケレバナラヌ、又民政党ノ動キニ
就テハ、餘リ心配シテ、ナク、必ズ新党ニ附イテ来
ル様ニナル、七月ニ入ツタナラ、何ントカ成ルダラ、
佛印、蘭印問題ハ現在ノ様ニ外交方針デ進ニデ
ハ、駭目タ、今保証位、領位、ヤラネバ、時期ヲ失レ、シ
マウト思フ、之レニ就テ、吾々ハ今後大イニ活躍スル積
リナリ

記録

905

秘書官

官情報第二一七二號

昭和十五年六月二十一日

警視廳官房主事

昭和十五年六月廿五日接受

名件 本利内政系係録

時局問題ニ就テ

大日本俱樂部 増田一悦談

一新党問題

原總裁ノ一投石ニ依ッテ新党問題ハ遽カニ表面化
 新聞ハ一斉ニ近衛公ヲ首班トスル新党ガ遠カラズ成
 之サレハ情勢ニナリト傳ヘ政友會内ノ三派ハ互ニ自
 派ニ都合ノ良イ様ニ社大党ハ人民戦線的主場カラ
 又有馬、風見、大川、浅原等モ各自最モ有利
 導カント異ツテ角度カラ新党運動ニ奔走シ氏政
 去就ニ迷ッテ群衆ヲ持續シテナル状態デアルガ最
 近近衛公ハ側近者ニ新党ニ出馬ノ意思ハナト語ッテ
 事實ガアルカラ当分新党成立ノ可能性ハナト見ル
 バキデアラウ、

(分類) 5.0.0. 政 局

S 1.5.0.0-1 209 2252

二 佛印問題

若レ公ガ新党ニ出馬スル意思ガアルモノトスレバ先ヅ政
 治的責任ヲ果スベク阿部内閣引退後ノ内閣ヲ引受ケ
 テ行詰レル國政ノ打開ニ献身的努力ヲ致サナケレハナ
 ラナイ筈デアラウ新党ヘ出馬ハ第一問題デアル、
 又新党ニ加盟セントスル各代議士ハ此ノ際潔ク離党ス
 ベキデアルニモ拘ラズ若シ新党ガ出来ナケレバ其ノ保党ニ
 居残ルト云フニ股ヲ拭ケタ猶ルイ態度ヲ以テアルガコ
 ナ事デハ理想的新党成立ハ遙遠レノ觀ガアル、

日本軍ガ海南島ヲ攻畧シタ時直チニ佛印ニ進出スベキ
 デアワタガ軟弱外交ガ禍シテ之ヲ断行シ得ナカッタ為ニ
 支那事変ヲレテコンナニ長引カセテシマッタ、今度ハ愈
 々陸軍ガ六師團ヲ此ノ方面ニ出動スル模様タカラ蔣政権
 ニ対スル最大ノ物資輸送路タル佛印ヲ台頭スレバソ聯カ
 ラノ輸送ハ僅カナモノデアルカラ支那事変モ急速ニ解決
 出来ルモノト思フ、

(以上)

S 1.5.0.0-1 210 2253

秘書官

官情報第一七三號

昭和十五年六月二十一日

警視廳官房主事

昭和十五年六月廿五日接受

近衛公、新党問題ト民政党ニ就テ

代議士(民政党總務) 堤 康次郎談

有馬伯

伯ガフアツレヨバリノ綱領ヲ近衛公ヲナチスノヒ

トトテ新党ニ携キ出ス様デアルガ斯クノ如

キ議會政治ヲ重視シ憲法ヲ認メナイ様ト論據ノ下

ニ樹ミタル新党ニハ断ジテ参加スル事ハ出来ナイ

若シ有馬伯ガ更ニ考ヘ直シテ議會中心即チ

天皇中心ニシテ新党ヲ作ルト謂フナラバ民政党モ

亦喜ンデ合流スル用意ハアル、吾々ハ近衛公自身ニ

反感ヲ抱クモノデハナイガ國民ガ何故ニ近衛公ニ期待

スルカ其ノ意味ガ判ラナイ

近衛公ハ支那事變ヲ遷延セシメタ当ノ責任者デハナイ

カ、近衛公ガ出馬シテモ決シテ事變ガ好転スルトハ考ヘ

(分類)

ラレナイ

次ニ民政党ノ党名、綱領ノ問題デアルガ之等ハ末節ノ問

題デアル、改正セヨト謂フナラ改正シテモ何等支障ハ

ナイ、民政党ノ綱領中議會中心主義ヲ行クト云フ馬ガ

悪ルケレバ又、陛下中心主義ト直シテラヨイト思フ、

既成政党ガ政府ニ反対シテナルト謂フ様ナ事ヲ專

ヘテナル者モアルガ民政党ハ豫算問題ニシテモ凡テ

政府ニ協力シ従テ政府ノ事變處理ニ協力シテ来テチ

ルノデアール。

以上

S 1.5.0.0-1

212

2255

S 1.5.0.0-1

2254

211

官情報第一一七六號
昭和十五年六月二十一日

警視廳官房主事

特局問題ニ就テ

代議士 大口喜六

情報部長

(一) 最近色々ノ機會ニ於テ米内首相ト面接スルガ其ノ

談話ノ中ヨリ種々綜合スル時首相ノ心境ハ近衛

公ナレバ内閣ノ引継シ為ス意志ガアル如ク自今ハ觀

測レテ居ル

近衛公ニ就テハ自今ガ直接聞イテ譯テハナイガ自分ノ

友人何レモ會フ人毎ニ云ハ最近後継内閣ニ對スル積極

性カアル様ニ謂フテ居リ目下西下中ノ近衛公ハ歸京

後尙モナク相相シ辞退シ之レガ具體的準備シ為ス

ノ説モアル、公シ繞ル新黨問題モ今日迄ハ私慾的ニ立脚

セル各方面ノ不純分子ヲ以テ云々サレテ居リ今尙之等不

純分子連中ノ在ハ遺憾ニ堪ヘヌ純粹ナル新黨即チ

(分類 1.5.0.0)

東亞局

一

S 1.5.0.0-1 2256 213

日記

昭和十五年六月廿一日接受



(二)

党利党略的或ハ私慾シ脱セル國家的新黨ノ樹立迄
ニハ相當ノ日時ヲ要スルモノト觀テ從ツテ近衛内閣
出現問題ハ公ノ相相辞退後ノ具體的動向及米内首
相ノ心境等ヨリ一步先ノ感ガアルガ双方何レモ微妙
ナル關係シ有テ居リ目下予断シ許サヌモノト思フ
事妻收拾ニ對シテハ今日如ク生温イ對策態度デハ
不可能ナ事ト思フ

(三)

目下最モ重視セラル、支那法幣對策ノ実行上ニ就テハ
天津上海兩租界シ撤棄スルト同時ニ香港一帶封鎖
断行ガ必要デアル、而シテ之等ノ断行後法幣對策ヲ
採ラバ事妻收拾策ハ何年經過スルモ実行ハ難ルマイ、
國內經濟統制問題モ統制強化ハ今後必要デアルガ藤原高相
及其他ノ關係ガ謂ハレル如ク運用上ニ根本的改革ガ必要デアル
今日ノ如ク状態シ持續スルニ於テハ此ノ苦境カラ何年経テモ
脱シ得ズ只國民ニ罪人ヲ増加セシメ司法警察事務ノミ繁
雜ニ陥ラレムコトナリ國民思想シ悪化レ由々救問題デ
アル

S 1.5.0.0-1 2257 214

秘書官

官情報第一二六七號

昭和十五年六月二十一日

警視廳情報課長

昭和十五年六月廿五日接受

日本護國党ノ外交問題ニ関スル
聲明迄ニ決議文發表ニ就テ

四谷區傳馬所新ノ五位馬ビル内

日本護國党本部

情報部長

東亞局長

歐亞局長

右愛國團體ニ在リテハ二十一日付ヲ以テ左記ノ如
×外交問題ニ関スル聲明迄ニ決議文約四百分ヲ
作成シ總理大臣ヲ始メ陸海外各大臣ヲ履訪シ該決
議文ヲ手交スルト共ニ貴衆兩院議員陸海軍予後
備將官全國新聞社各政黨迄ニ愛國團體宛郵送
ノ予定ナリ

聲明

歐洲戰局ノ擴大ハ世界情勢ニ一大衝擊ヲ與ヘ自由主ノ

義國家ノ敗退ハ世界動向ノ一大轉換ヲ余儀ナシ
見ヨ！佛國ハ降レ英國又戰略ニ窮レタ此ノ秋ニ當
リ我が帝國ハ如何ナル方策ヲ以テ此ノ情勢ニ對處ス
ベシデアルカ茲ニ於テ我黨ハ内國內体制ノ再強化ヲ
断行シ外友邦ト盟約ヲ締結シ以テ東亞新秩序建設
ニ邁進シ世界新秩序建設ニ貢獻スベシデアル事ヲ確
認スル即チ之行動ノ具現化ニハ速カニ日独伊軍事同
盟ヲ締結シ歐洲戰不介入ヲ一擲シ直チニ参戰ヲ宣シ更ニ
其ノ実効ヲ強大ナラシメシガ為ニハ日蘇不可侵條約ヲ締結
シ東亞ノ安定勢力ヲ確保シ而シテ軍事行動ヲ以テ佛印
蘭印ヲ確保スベシデアアル

右聲明ス

昭和十五年六月二十一日

日本護國党本部

S 1.5.0.0-1

216

S 1.5.0.0-1

2258 215

決議

- 一、日獨伊軍事同盟ノ即時締結ヲ期スベシ
 - 一、歐洲戰不介入ヲ一擲ニ直テニ参戰スベシ
 - 一、佛領印度支那、蘭領印度諸島ノ武力確保ヲ期スベシ
 - 一、日蘇不可侵條約ノ即時締結ヲ期スベシ
- 右決議ス

昭和十五年六月二十一日

日本護國黨本部
 總裁 山口幸輝
 副總裁 小宮武逸
 書記長 小倉誠一

S 1.5.0.0-1

2259

217



秘書官

言情報第一七七號

昭和十五年六月二十一日 警視廳情報課長

昭和十五年六月廿五日接受

記

民政党員懇談會開催ニ関スル件

情報部長

民政党ニテハ本日正午ヨリ、凡、内會館ニ於テ定例党員懇談會ヲ開キ、所田總裁始メ、櫻内、勝海閣僚、小泉又次郎、俵孫一、小川郷太郎、永井、柳太郎等、各前閣僚、大森主任總務、内、崎、松村各總務、櫻井幹事、長川崎政務、調査會長以下、所屬代議士並ニ改選後ノ所屬、東京府會議員等、二百余名出席シ、午餐後、共ニシタル後、櫻井幹事長ヨリ、支那現地視察團ノ慰勞並ニ新東京府會議員當選者ニ對スル祝辭、其他簡單ナル挨拶アリ、終ワテ、田中ト、高逸代議士、支那視察團ヲ代表シテ、現地報告

S 1.5.0.0-1

2260

218

園藩ヨリ、東京府會議員當選者ヲ代表シテ、謝辭ヲ述べ、終ワテ、別項ノ通り、總裁ノ演説アリ、午後一時四十分散會セリ

S 1.5.0.0-1

2261

219

町田總裁演說要綱

今や我国内外、情勢ハ其ニ千歲曾テ見ザル重大ナル時代ニ入ラタ
 歐洲戦争、結果世界ノ現状ハ全ク一変シ、茲ニ新ナル秩序ガ建設セラル、コトハ最早明白ナル事實トナラタ、此、未曾有ノ大變局ニ對處シ、世界新秩序ノ建設ニ方リ、帝國ノ大ナル使命ヲ遂行スルニ、非常ノ決心ト用意トヲ要スル、加之帝國ハ過去四年ノ間、支那事變ノ處理ニ一意邁進シ、來ワタ、新支那ノ建設ニモ更ニ長年月ノ努力ヲ要スル、斯、如ク世界ノ變局ニ對處シテ、先輝アル帝國ノ前途ヲ開拓スルニ、最早國民一日、苟安ヲ許サナイ、非常ノ決意ヲ以テ、新ニ之ニ應ズル國家内外ノ体制ヲ整ヒ、其總力ヲ擧ケテ、帝國外交ノ方針モ亦此ノ大局的見地ヨリシテ、大ナル建直シヲ必要トスル、世界ノ新建設ニ對シ、帝國ガ其間ニ處スル、有力ナル地步ヲ、今ニ於テ、確保セ、バ、ナラタ、既ニ先ノ大會ニ於テ、言明シテ、通リ、亞細亞諸國ノ提攜ハ、之ヲ政治的文化的ニ見ルモ、亦經濟産業ノ上カラ、見ルモ、極メテ自然ノ歸趨テアル、日滿支ヲ中樞トシ、亞細亞及南洋ヲ包括シテ、政治的經濟的結合ニヨリ、初メテ、我生存圈ガ確立スル、テアル、帝國外交ノ根本方針ハ、其基調ヲ茲ニ置キ、今後ノ國際局面ニ善處スベキテアル、從テ、帝國ノ歐洲戦争ニ對スル方針モ、既ニ禍乱ノ影響ガ東洋ニ波及セル、今日茲ニ一大轉換機ニ入ラ、バ、ナラヌ

斯、如キ世界ノ大變局ニ對處シ、亞細亞ノ安定勢力ヲ確保スルニ、第一ニ高度國防ヲ根幹トシテ、凡スル國家体制ヲ整ヘ、ナクテハ、ナラヌ、コトハ勿論テアル、ガ、財政經濟ノ体制モ亦此ノ國防

S 1,5,0,0-1

2262-1

221

S 1,5,0,0-1

2262

220

線ニ割フテ之ニ適應スル組織ニ改ムベキナル
 就中國防資材生産、獨立自給ヲ一日モ速ニ確
 保スルコトカ今日急眉、急テアル。同時ニ亦國力
 戦ニ堪フル國富ノ培養ヲ急セニスルコトハ出來テ
 一從テ此、國家ノ要望ヲ充タスガ爲メニスレキニ
 且ル計畫經濟ノ体制ヲ速ニ確立スベキナル
 ソレニハ今日、如キ臨時的統制經濟ヲ強化是正
 レ國家ノ計畫統制ヲ下ニ國民カ其計畫ニ基キ
 テ実行ニ當ル組織ヲ作り公益優先ノ下ニ國民
 カ創意ト工夫トヲ發揮シテ全能力ヲ擧グル組織
 ヲ確立スルコトヲ要スル

此ノ容易ナラザル重大任務ノ完遂ニハ國民一致ノ努力
 ト發奮ニ待タズバナラヌ。從來、生活様式ヲ改善
 レテ國家ノ事態ニ即應スベキ簡易ノ新生活ヲ規
 制シ犧牲訓練協同ノ國民的性格ヲ陶冶強化シ
 物心兩面烈々タル國民精神ノ發揚ヲ期サズハナ
 ラヌ

私ハ時局ノ極メテ重大ナルニ痛感スル所アリニ大
 決意ヲ以テ党ニ特別大委員會ヲ設ケ速ニ審
 議ヲ遂ゲ此、未曾有ノ世界ノ變局ニ應ズル党
 ノ指導方針及政策ヲ一新シテ天下ニ率先シ
 國民ヲ指導シ直ニ報國ノ赤誠ヲ以テ天下同憂
 ノ士ト相携ヘテ鴻業ノ翼賛ニ邁進セントスルモノデ
 アリマス

S 1.5.0.0-1
2263

S 1.5.0.0-1

222

2263-1
223

S 1.5.0.0-1

官情報第二一八〇號

昭和十五年六月二十一日 警視廳情報課長

昭和十五年六月廿五日接受

①

民政黨臨時總務會開催ニ関スル件

民政黨ニテハ本日午後二時ヨリ党懇談會ニ引續キ丸ノ内會館ニ於テ臨時總務會ヲ開キ懇談會ノ席上町田總裁ノナシタル演説ノ趣旨ヲ具現化スベク其ノ方法ニツキ協議シタルガ先ツ櫻井幹事長ヨリ党ノ新指導精神ニ則リタル新政綱新政策ヲ決定スル為メ大調査會ヲ設置ナシテハ如何トノ意見ヲ提出シタルニ對シ田中武雄、大麻唯男、川崎克、原夫次郎、小泉又次郎等ヨリ何レモ賛成意見ノ開陳アリ依テ花ノ如キ大調査會ヲ設置スルコトニ決定シ午後四時散會セリ

S 1.5.0.0-1 2264 224

一名稱

指導精神ニ関スル大調査會

一機構

所屬兩院議員全部及總裁指名ニ依ル委員ヲ以テ構成シ座長ヲ筆頭總務大麻唯男トス而シテ二十五、二十六兩日ニ大調査會總會ヲ催シテ右向題ニ関スル協議検討ヲ遂ゲタル後適當數ノ特別委員會ヲ設置シ新綱領新政策ノ案文作成ヲナシタル上大調査會全体會議ニ附議決定シテ其ノ實行ヲ期スル事決定ニシテ民政黨ハ能ク可クンバ本月中ニ是カ決定ヲナスベキ意向ヲ有セリ。

S 1.5.0.0-1 2265 225

以上

905

秘書官

昭和十五年六月廿五日接受

記

官情報第一八一號
昭和十五年六月二十一日警視廳情報課長

民政党外政部會開催ニ関スル件

民政党ニテハ本日午後四時三十分ヨリ

閣議

本部ニ於テ外政部會ヲ開キ部長清水

卯田三郎外各委員出席 外務省情報

部長須磨彌吉郎ヲ招聘シ蘭印内題

ニ関スル講演ヲ聴取シ是ニ對シテ質疑

應答アリ午後七時散會ヤリ。

6 1.5.0.0-1

2266

226

秘書官

官情報第二一八二號

昭和十五年六月二十一日 警視廳情報課長

六月廿五日接

時局國民懇談會發起人會世話人會
開催ノ件

本日午後二時ヨリ麹町區山水樓ニ於テ標記會合
ヲオセルガ出席者ハ

情報部長

永山忠則、西方利馬、今井新造、
倉元要一、道家齊一郎、三田村武夫

下中弥三郎、肥田琢司、生田和平、
岡野竜一、小川喜一、本領信一郎

杉山謙治

ニシテ明後二十三日上野精養軒ニ於テ開催サル、
大發起人會ニ於ケル協議主題ニツキ種々打合せ
ノ結果大要ヲ記シ如キ方針ヲ以テ進ム事ヲ併合
セ全四時散會セリ

申合 記

一 對外國策、根本的轉換ニ関スル件

東亞新秩序建設ト世界維新、完遂ニ邁進スル根本外交
ニ轉換スル事

二 其ノ為ニ旧来ノ現状維持ト自由主義ヲ固執シテ國民指導
ヲ誤ラレテ日本飛躍ノ好機ヲ逸セシメタ責任者タル財界

教育界、政界各層ノ現状維持勢力ノ及有善處ヲ要望スル事
三 此ノ為ニ新政治体制ヲ確立シ日本的世界觀ニ立脚スル庶政
ノ革新ヲ断行セバナラヌ

四 之ガ發露トシテ現在ノ東建及聖賢ノ行動ヲ廣ク國民ニ認識
セシメル為ニ國民大會ヲ開催スル事

(其ノ日時、場所等ハ確定セズ)

以上

S 1.5.0.0-1

2268

228

S 1.5.0.0-1

2267

227

905 大臣 次官

電信課長

昭

昭和15 五五四四九 暗

上海 六月二十二日午後
本省 二十二日夜着

亞情

有田外務大臣

三浦總領事

第一二五一號

貴電第六五一號及第六五六號ニ關シ(元大日本青年黨員桐田外取押方ノ件)

古木警部補へ左記御傳へ請フ

鈴木ノ取調ニ依レハ桐田ハ瀬島ニ小型拳銃一挺ヲ(彈丸)携行セシメ大阪市朝日區蒲生町居住大日本青年黨員中田龍三コト赤池床三方ニ預ケ置キ鈴木カ三月末歸國ニ當リ同人ヨリ之ヲ受取り保管セシメタルカ鈴木ハ後日再ヒ之ヲ赤池ニ返シタルニ桐田歸國ノ上赤池ヨリ

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 秘書官

外務省

S 1.5.0.0-1 2269 229

905

2

取戻シタルニ付桐田ヲ追及セハ發見可能ナルヘシ
池田ハ未タ提出セス數本ハ追及中ナリ
桐田朔子ヨリ鈴木ノ預カレル拳銃一挺(彈丸四發)ハ押收セリ

(了)

外務省

S 1.5.0.0-1 2270 230

官情報 第一九四號

昭和十五年六月二十四日警視廳情報課長

六月廿五日接受

近衛公、聲明發表ニ關スル件

近衛文磨公ハ本日樞密院議長拜辭ニ際シ午
後零時三十分萩窪ノ自邸ニ於テ談話ノ形式
ヲ以テ左ノ聲明ヲ發表セリ

聲明

内外未曾有ノ變局ニ對處スル為メ強カナル
學國政治体制ヲ確立スル必要ハ何人モ之ヲ認
メル處デアル自方ハ今回樞密院議長ヲ拜辭
シ專心新体制ノ確立ノ為メ微力ヲ捧ゲタイ
最近活潑ニオツタ所謂新黨運動ハ斯ル体制
ノ意味ナラ誠ニ結構デアル然レ單ニ既成政黨
ノ離合集散ヤ眼前ノ政權ノ目標トスルガ如キ
策動デアアルナラバ自方ハ之ト事ヲ共ニスルコトハ

出未ナシ
學國体制ノ具体的問題ヤ之レヲ具現スベキ
方策ニ就テハ今後各方面ノ意見ヲ聽キ慎重
ナル考究ヲ遂ゲタ上之レガ實現ニ努力レヤウ
ト思フ

以上

S 1.5.0.0-1

232

2272

S 1.5.0.0-1

231

2271

秘書官

官情報第二一九五號

昭和十五年六月二十四日

警視廳情報課長

昭和十五年六月廿五日接受

近衛公ノ聲明ニ對スル民政党櫻井幹事長ノ談

近衛公ノ聲明ニ對シ民政党櫻井幹事長ハ本日
本部ニ於テ左記ノ通り談話ノ形式ヲ以テ批評ヲ
加ヘタリ、

談

近衛公ハ内外未曾有ノ變局ヲ憂慮セラレ特ニ
其ノ中我が政治体制ニ就テ深ク意ヲ致サル事
ハ私ノ最モ敬意ヲ表スル處デアル、
公ガ現在ノ事象ニ起テシ確乎タル理想的軌範
ヲ示シ導ナル離合集散ヤ政權目標ノ動キ等
ノモノアラバ事ヲ共ニ出スナイトノ事モ誠ニ尤モ
デアル、
公ノ目的方途ノ具體的現ハレハ今後ニ屬スル様ナ
事テ入テノ處批判ノ時機デハナイ。

S 1.5.0.0-1 233 2273

秘書官

官情報第二九六號

昭和十五年六月二十四日 警視廳情報課長

聖戰負徹議員聯盟ノ政党即時解体
促進協議會開催ノ件

聖戰負徹議員聯盟ニアリテハ本日午後三時
ヨリ本部ニ於テ標記會合ヲ為シタルガ
出席者ハ

- 西方、上田、原、土倉、綾部、西川、
- 西村、肥田、西岡、松村(老)、長野、道家、
- 赤松、小山、清瀬、永山、亀井、
- 等ニシテ

西方利馬座長トナリ
内外ノ逼迫セル現勢ニ鑑ミ旧体打破ハ焦眉ノ
急ニシテ先決トシテ既成政党ノ解消ト新政
治体制ヲ確立スルニアリ

ト諮リ協議ノ結果左記決議案ヲ満場一致可
決実行委員ヲ舉グ政党ノ解消ニ乗出スコトニ
決定午後四時散會セリ

- 追テ実行委員ハ
- 西方、上田、倉元、土倉、原(玉)、生田、西村
- 肥田、亀井、原、道家、永山、西岡、
- ニシテ

右委員ハ各班共明日ヨリ各政党總裁ヲ訪問
解体勸告ヲ為シ今後一週間内ニ實現スル様積
極的ニ努力カシ
民政班ハ明日午前八時半町田總裁ヲ訪問ノ
約束ヲ為セリ、
尚民政黨ニハ一應儀禮的ニ勸告シテ民政ノ
真相ヲ露出スル意図ナリト云ス

S 1.5.0.0-1 2275 235

S 1.5.0.0-1 2274 234

決議

内外ノ急迫セル客觀狀勢ハ一日タリトモ現狀維持ヲ許サズ新政治体制ノ確立ハ將ニ國家焦眉ノ急務ナリ因ツテ現存一切ノ政党政派ハ新政治体制確立ノ為無私奉公ノ精神ニ立テ速ニ解党ヲ断行スベシ

右決議ス

昭和十五年六月二十四日

聖戰貫徹議員聯盟

S 1.5.0.0-1 236 2276

905

電信課長

大臣

次官

⑤

丁

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和15 一八四四四 平

紐育 六月二十五日後發 本省 二十六日前着

情、歐

有田外務大臣

若杉總領事

第四〇五號

二十五日「タイムス」、
「フアッシュ」的新黨結成ノ爲ト信セラレ居ルモ一部ニハ近衛公ノ自由主義的傾向ヨリ推シテ軍部牽制ノ爲一ノ強力ナル政治組織ヲ起サントスルモノナリトモ見ラレ居レリ其ノ眞意ハ未タ明カナラサルモ確乎タル目的ト強力ナル支持ヲ下ニ新政治體制樹立ノ運動ニ乘リ出サントシ居ルモノナルハ疑無シトシ其ノ聲明全文ヲ掲ケ「トリビュン」ハ佛蘭西ノ降伏ハ日本ノ内政外交ノ全般ニ亘リ一大變革ヲ與ヘ

分類 5.0.0.1

外務省

6 1.5.0.0-1 2277 237

905

2

ツツアリトテ近衛公ノ企圖スル新黨形成ハ日本ノ全體主義的政治體制完成ノ最後ノ段階ナリト云ヒ得ヘク又日本ハ英佛ノ援蔣行爲禁遏ニ依リ事變處理ヲ促進スルト共ニ獨伊樞軸接近ニ依リ佛印等ノ處理ニ資セントシ居ルモノノ如シト報シ居レリ
米へ郵送セリ

外務省

6 1.5.0.0-1 2278 238

905

電信課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和15 一九五〇年 紐育 七月三日後發 本省 四日前着 情、亞

有田外務大臣

若杉總領事

第四二七號

三日「トリビューン」ハ二日「フライシャー」電話トシテ近衛公ヲ
首班トスル全體主義且親獨伊的ナル新黨樹立工作頓ニ進展シ既ニ政
友兩派及社大其ノ他ノ小黨ハ新黨參加用意ヲ表明シ又民政黨ノ如キ
モ結局參加スルニ至ルヘント見ラレ一、二週間以內ニハ劃期的ナ新
黨ノ成立ヲ見ルヘク右ハ現下ノ歐洲政局ハ「世界新秩序」確立ノ絶
好ノ機會ナリト信スル軍側ノ壓力ニ因ルハ勿論ナルモ獨軍大勝ニ依
ル國內ノ親獨輿論ヲ無視シ且手緩過キタリトノ非難ヲ受ケタル有田

外務省

S 1.5.0.0-1 239 2279

905

2

放送ニ依リテ特ニ拍車ヲ懸ケラレタルモノト云フヘク斯クテ米國內
閣ハ難局ニ直面セリト報シ居レリ
尙當地各紙カ香港電ニ依ル引續キ英米人ノ引揚等ニ依ル同地ノ緊張
振ヲ報スルト共ニ新政府ノ共同租界内反動分子逮捕命令ニ關スル上
海「エービー」ヲ掲ケ居レリ
米ニ郵送セリ

外務省

S 1.5.0.0-1 240 2280

次官

秘

官情報第三七七號

昭和十五年七月三日 警視廳官房主事

昭和十五年七月四日 接受

記録簿 本邦内閣官房記録簿

外交問題

内閣記者俱樂部部讀賣記者

(分類 1500 /)

本日、閣議終了後、自分、首相ニ會フタ、其ノ話ノ模
様デハ、今日ノ閣議デ、外交問題ニ對スル話モ出タラ
シ、外相カラ「最近外交問題ヲ繞ツテモヤクシタ空
氣ガアル」トノ話ガ出タノニ對シテ、首相カラ「モヤク
シタ空氣ヲ取ッ拂ツタラ、良イデハナイカ」ト云ツタ
ソウデ、其他、藏相カラモ意見ヲ述ベタガ、陸相ハ發
言ナカッタトノフトデアル
此ノ間、事情ヲ綜合シテ見ルト、陸相ハ非常ニ立場
ニ窮シテ居ルライ、部内一部ノ強硬意見ヲ陸軍
ノ見解トシテ、内閣ニ提出スベキカ、或ハ斯ル意見ヲ封
ジテ、既定方針ノ儘デ進ムカニ就テ去、就ニ述ツテ居

ルノデハ、ナイカ、從ツテ部内、強硬意見ヲ取り上げ
ネバナラヌマデニハ、尖銳化シテ居ラヌ、要ハ部内狀
勢、今、何ノ推移ガ、内閣ノ運命ヲ支配スルコト、ナル
ベク、政ニ部内ノ狀勢上、何フシテモ強硬態度ニ出
ヅルノ余儀ナキニ至ツタ場合、陸相ハ總理ニ強硬進
言シテ、若シ容レラザレバ、辞任スルト云フ態度ニ出ル
ノデハ、ナイカト思フ

S 1.5.0.0-1 242 2282

S 1.5.0.0-1 2281 241

905

極秘

電信課長

大臣 次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

記録名

昭和15 五五五四二 暗

上海 六月二十五日後發
本省 二十五日夜着

亞、條

有田外務大臣

三浦總領事

第一二八一號ノ一(極秘)

往電第一二二五號ニ關シ

當地共犯者ノ取調ニ依レハ何レモ桐田ノ指令ニ依リ動キタル旨申
立テ居リ桐田ヲ首魁トスル一味ノ犯行ニ止マル限リ當館ニテ搜查
致度キニ付古木、本田ハ一應歸任セシメ當地ノ取調ヲ取纏メ内務
省側ヘ提示シ事件及犯人ノ引取方交渉致度ク右御取計請フ尙古木
ヘ左記御傳ヘアリタシ

桐田ハ本年一月頃ヨリ昭和維新斷行ヲ決意シ個々ニ能谷、田邊

(分類)

外務省

S 1.5.0.0-1 2283 243

905

2

鈴木等ト謀議シタルコト

ニ維新斷行ヲ行フ非合法手段ニ要スル拳銃五挺ハ一月末及三月初

頃江川ニ買受ヲ命シ江川ハ當地在留邦人二名ヨリ之ヲ仕入ル(二

名トモ取調中ニテ中一挺ハ押收ス押收拳銃三トナル)右ニ依リ

拳銃ノ數ハ能谷ノ供述ト略々一致シ又所在モ夫々判明ス(續ク)

外務省

S 1.5.0.0-1 2284 244

905
電信課長

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文書
調查
人典
儀典
文書
會計
會書
官

寫
送
先

昭和15 五五五四〇 暗 上海 六月二十五日後發 亞、條
本省 二十五日夜着

有田外務大臣 三浦總領事

第一二八一號ノ二(極秘)

手榴彈ハ桐田カ自ラ調達シテ之ヲ革「トランク」ニ入レ妻千鶴子

ニ託シタルモノ七箇、熊谷、三石ニ命シテ入手セルモノ九箇アル

見込ナルモノ全部ノ數ハ桐田ノミ知ルニ付追究ヲ要ス

四 武器押收手段ノ爲池田、金子、後藤ハ不拘束

五 桐田カ上京後ノ立廻先ニ付テノ鈴木ノ申立ハ

一、青年黨本部雨谷菊夫、松邊繁廣

二、住所鎌倉以下不詳 山口源作

外
務
省

S 1.5.0.0-1 2285
245

905

三、東京目白會館 井口雲堂
四、滿井佐吉中佐
五、山本英輔大將

等ナリ委細航空便アリ次第送付ス(了)

2

外
務
省

S 1.5.0.0-1 246 2286

次官



官情報第二三八〇號

昭和十五年七月三日、警視廳官房主事

秘書官

年七月四日 接受

時局ト政変説ニ就テ

貴族院議員

某

情報部長

一、米内々閣ノ寿命モ本月、七日頃迄ガ後継首班ハ近衛公トノ噂ガ多イ組閣シテモ近衛三原則ヲ修正シテ退陣トナラウカラ案外短命ガ閣員モ少数テ強カナモノヲ作ルモノト思ハレル

二、代議士(民) 長野 綱 長

独存ト援携シテ行クベキハ當然我國ノ採ルベキ外交等デアル先日為シタ有田放逐ハ今更其ノ必要ナレトノ感ハ深イ

政変ハ七日迄ト見ル現在米内ト近衛公ノ間ハ円満デアルカラ佐野米内々閣退陣トナレバ近衛公ニ大命ガ降下スルカラウ近衛内閣ノ關係中デ一番重

要視サレルハ強力政治体制組織ノ關係上内相ノ人物詮衡デアル

三、代議士(國同) 高岡 大 輔

有田放逐ニ原因シテ急角度ニ政司ハ転換スル最早米内々閣ノ退陣ハ時間ノ問題ガ恐ラク本月十日前後カラウ 陸軍一部ノ考ヘト現内閣ノ考ヘハ全然相容レ

ナイモノガアル海軍ハ米内支持ト云フガ一部支ケテアル現状打破ニハ尋常手段ヲハ駄目ダ其處デ杉山ノ中心ニシテ軍政ニ傳ハラレテ居ルレ又陸軍一部ハ近衛新党ヲ推進スベク活躍スル等混沌タルモノガ下ル

四、代議士(民) 宮 澤 胤 男

有田放逐ハアノ程度ヲ結構ガ然シ激生的ニ突発スル個々ノ諸問題ニ對シテハ確固タル信念ガ必要ガ此ノ点現内閣ニ遺憾ナレトハ断ジ得ヌ

五、代議士(民) 手代木 隆 吉
外相放逐ヲ繞ッテ陸軍部内ト面白ナイ結果ヲ招来

S 1.5.0.0-1

248 2288

S 1.5.0.0-1

247 2287

レ政変必至カ傳ハラレシル後継内閣首班ハ某ニ次
近衛内閣出現、聲カ高イ

六、國民新聞記者 某

米内々閣、辭職ハ本月ノ十日前後ト觀ラレル
外田外相ハ二三日前途問題ニ関シテ辭職ヲ周圍
ノ人ニ洩ラレ首相ハ之ヲ慰留シヌソウカガ結局外
相辭職内閣總辭職ト云フコトニナラウ。

新聞之日本社長 柴田 久雄

政変、非カ濃厚ニテソテ素ク恐ラクテ十月廿六日
頃迄ニ何トカ片ガ着クノデハナイカ

有田外相、聲明ヲキフカケニ軍ハ倒閣運動ヲ
始メタカ九々陸軍ハ蘭印佛印英印、香港道
モ政界レ更ニ独伊ト軍事同盟ヲ結ビ内閣
的ニ近衛ノ手デ政黨ヲ變クレ、軍政ヲ布キ
フホフト内閣ヲ造リ、總憲ノ名ニ國政ヲ存
分ニスル腹ダラウカ、米内ガ全海軍ノ支持ヲ得
テオトルノデ何処迄陸軍ヲ押ハ得ルカ、政機ヲ左
右スル鍵ニ成ルト思フ

海軍、獨伊軍事同盟反對ハ絶對ノモノデ陸
軍、打ツタ此度ノ手ハ兩者正面衝突ノ危険
が多分ニ有ル、テ米内モ其ノ莫ラハ配シ或ハ際
ドイ処テ妥協スルカモ知レヌガ政機ガ余リニ
複雑テ仲々予新ヲ許サヌ

新黨問題デ種々ナ説ガ有ルガ陸軍ハ近衛ヲ
問題ニシテオラヌ、假ニ新黨ガ出来近衛ガ党首
ニ成ルトレテ軍ノ動向ガ益々問題トナラウ。

S 15.0.0-1 250 2290

S 15.0.0-1 249 2289

次官

秘書官

官情報第三三九一號

昭和十五年七月四日

政局ノ諸動向ニ就テ

警視廳官房主事

情報部

昭和十五年七月五日 接受

陸軍大臣

記

強硬外交へ、轉換並強力新政治体制結成促進
右躍中ノ代議士清瀨一郎、今永山忠則ハ交々

米内首相ハ有田外相ノ非難ト政変説アルニモ拘
ラズ能道元張リ通サントスル凡ユル施策ヲナシ
ワ、アリ他面不可能ノ場合ハ自己ニ代スベキ内
閣出現ヲ意圖シワ、アル又岡田ヲ甲ハトスル重
臣方面ニ於テモ海軍、米内擁護ト民政黨ヲ
擁レテ宇垣又ハ廣田内閣ヲ出現セシムル爲暗
躍アリト傳ヘラレル加フルニ鈴木樞密院副議
長、登場ハ明カニ陸軍へ、挑戦テアルシ又

新体制阻止ハ重要テモアル若シ現下ノ状態下
ニ於テ斯様ノ内閣ガ出現セバ其レコソ流血ノ慘
事ヲ惹起スル慮ガアル之等ハ本月十日目前
後ヨリ新体制問題ヲ繞フテ漸次相剋ガ表
面化シテ來ルテアラウ

(二) 右ニ反シ陸軍ニ於テハ先般、樞相更迭事情
ヨリ原鈴木實ノ奏請ハ陸軍ニ對スル米内首
相並ニ重臣其他現状維持派、挑戦ナリトシ
テ憤激スルト共ニ有田外相ノラヂ不放送ヲ巡
フテ殊ニ激化シ米内首相ノ居持リハ勿論新
政治体制ヲ阻害セントスルガ如キハ絶対爆弾ス
ベントノ見解信念、下ニ近衛公出馬ヲ期待シ
眞剣ナル活動ガ展開サレントシテ居ル
然ルニ近衛公トシテハ當初ヨリ政權ト新黨結
成運動トヲ別個ニ考ヘ政權懸念云々ノ非難ヲ
極力回避セントスル事ガ信念的ニ強ク關係

S 1.5.0.0-1

252

2292

S 1.5.0.0-1

251 2291

上首班タル地位ニ對シテハニ、足ヲ踏ムノテハナイ
力其及テ出馬不可能ナル場合ヲモ予想シテ最
悪ノ場合ニ處スル第三ノ場合ヲモ考慮中ニ
アル

(三) 即チ現状打破的新政治体制出現ヲ欲ス
ル陸軍ニ於テハ最後の手段トシテ軍政府樹
立ヲ目指シ此ノ場合ハ杉山若シクハ畑ヲ擁シテ能
道強硬策ヲ堅持シ國際的新情勢ニ對應シ
新東亞ノ新秩序ヲ實現セントナシテ居ル
以上ノ通り政局ヲ繞ル様相ハ三流ノ見方ガア
ル

何レニスルカ、滿洲國皇帝帝師歸國ヲ俟フテ
六日ニハ社大ノ解党ヲ始メ、又原派中ノ島派其
ノ他諸派ノ新体制參画派ノ解消的足並モ稍
々出揃フ結果、八日九日十日頃ヨリ急角度ニ
政変ヲ新党問題モ同時ニ表面化シ政変

ハ新党ヨリ早ク新党ハ本月一杯ニ構相が纏
ル位ニナルモノト觀ル向カ多ク

以上

S 1.5.0.0-1

254

2294

S 1.5.0.0-1

2293 253



官情報第二三八六號

昭和十五年七月四日

警視廳 官房主事

昭和十五年七月五日

時局問題ニ就テ

陸軍大將元首相 林 銑十郎談

情報部長

一 新党組織ニモ革新派ト單ナル政黨更生派ガアル
 譬ヘバ風見ノ如キハ前者デアリ 山崎(林内閣當時ノ
 農相)ノ如キハ後者デアル
 新党ハ一應ノ形ハ出来ルガ所謂新政治体制ハ強固ナル
 モノハ不可能ト思惟スル 從ツテ鵜的ナモノトナル
 然裝將來内面的ナ清算ト外部カラノ吸收作用ニ
 因ツテハ強化サレ得ルモノト思ハレル

二 次期政權ヘ新党組織ト密接ナ関係ガアル即チ新政
 党体制ト次期政權トハ不可分ノ関係ニアルカラ譬
 ヘ近衛公ガ拜辭シテモ 四圍ノ情勢ト熱心ナル側近
 ニ推サレテ拜スル様ニナルト思フ

S 1.5.0.0-1 255 2295

此ノ内閣ハ外務ト大藏ニ重点ヲ置クコトニナルガ外務
 ニ白鳥又ハ松岡 大藏ニハ勝田邊リカ、依然トシテ
 池田 結城ノ線ニ置クカニ因リテ其ノ相貌ハ現レルト
 思フ、結局ハ外交ニ重点ヲ置イテ進ム様ニナラウ
 即チ全公ハ爾來自分ハ經濟ニ暗イト言フテ居ル
 ノハ財政方面ニ手ヲ付ケナイ事ヲ意味スルコトニモ
 取レル

256 2296

三 歐洲情勢ノ推移變局ハ頗ル深刻ナ影響ヲ齎ス
 モノデアアル莫ク非常時ハ之レカラ起ルカラ綜合國力
 ヲ動員シテ國防國家ノ建設ニ極進セネバナラヌ
 茲一二年間ニハ大變動ハナイ寧ロ準備期デアアル
 所謂昭和維新ハ尚一二年ヲ要スルモノト觀ラレル
 以上

S 1.5.0.0-1

秘書官

官情報第ニ三九。第

昭和十五年七月四日

警視廳官房主事



新党問題ニ就テ

崇皇社 佐野

均談

近衛公カ樞府議長ヲ辞シテ愈々積極的ニ種
 カ新党へ、出馬トナリタルカ一般國民ハ近衛公
 ニ對シテハ一縷ノ期待ヲ有スルモ自由主義、集合
 体タル新党ニ對シテハ何等ノ希望ヲ有シテ居テ
 私自身モ之レニ反對意嚮ヲ有スルモノデアル
 即チ英米資本主義自由主義國家、傀儡タル
 池田結城、財閥ハ重臣層ニ根強ク喰イ込ミテ
 策謀ヲナシ近衛公春後ニ亦所謂三羽鳥ト稱セ
 ラル、風見章、金光庸夫有馬頼寧等アリ風
 見ハ瀧ト共ニ軍部方面ヲ金光ハ政党、了解
 及ビ資金関係ヲ有馬ハ貴族院ヘト夫々暗躍
 了解運動ニ奔走シ其ノ傘下ニ蠟集スルモノハ國

257

2297

S 1.5.0.0-1

258

2298

S 1.5.0.0-1

氏ノ信望ナキ既成政党ト電井貫一郎、策ニ
 依ル時局下思想的危険ナル社大ト從來社大
 ヲ敵視シ来レル右翼陣營ノ一派カ一夕幸樂テ
 社大主腦部ト會食シタル事ニ依リ共ニ手ヲ握
 リテ新党ヲ結成シ之レコソ新政治体制ヲ強カ新
 ノ樹立ナドト國民ヲ偽瞞スルモ甚クレイ之ノ新
 党コソ左翼分子、潜入ノ機會ヲ與ヘ人民戦線派
 ノ温床トナリ聽テ國家ヲシテ危殆ニ導ク危険極
 リテモテアル
 私等ハ此ノ自由主義新党反對、烽火ヲ同志ト共
 ニ舉ゲントスルモノデアル我々之ノ反對運動ニ對シ
 テハ必スヤ當局、峻烈ナル彈壓アルヲ豫期シ前
 衛隊アルモノヲ組織シテ當局ハ警戒網ヲ鞏固
 スルモ當局、彈壓峻烈ナレバナル程國民大衆
 ノ反政府的憤激トナリ或ハ一大不祥事件ノ
 勃發トナルヤモ知レズ我々ハ新党反對、猛烈

ナル運動ヲ展開スルト共ニ新党今後ノ動キニ
依ル内外情勢ノ如何ニ依リテハ英米資本主
義自由主義ノ國家ノ傀儡者ヲ排除シ以テ一身
ヲ國家ノ為犠牲ニスル共敢テ惜ムモノテナイ

259

S 1.5.0.0-1

2299



大臣 905
了
次官

官情報第二三九六號

昭和十五年七月五日

警視廳官房主事

政局問題ニ就テ

満鐵囑託 尾崎秀實談

情
本印の収
系簿付録

第二課長
第二課長
第二課長

外務省ト陸軍省ト、關係ヨリ政局ガ頓ミニ緊迫シタ
デ客觀狀勢ハ政變必至ト見ラレタ 然シ陸軍ノ真意
米内内閣ヲ打倒スル決心ガ付カナイ 其レハ後継ニ
関スル準備ガ完成シナイカラデア

陸軍ハ近衛公要望ガ主流トナツテ居ル(軍務軍事面
課)故ニ米内々閣ト近衛トノ間ニ中間的存在ノ内閣
ハ全然考ヘラレナイ 若シ今外相問題デ米内々閣
ヲ崩壊セタナラバ近衛公ノ引出シハ困難トナル

結局軍ガ中間的存在ノ内閣トシテ責ヲ負ハナケレバ
ナラナイコトニナルガ其レ迄ノ腹ハ軍ニハナイ
此ノ点カラ有田畑ノ間ハ一應諒解ガ付イタ 然シ此レ

返再回文書課長

ハ一時的デアツテ恒久性がナイコトハ明瞭デア
新党ノ進展状況ト近衛公ノ心境如何ニ依ツテ客觀狀
勢ガ進メバ此ノ問題ハ再燃スルモト見ナケレバナラヌ

(分類) 5.2.0

S 1.5.0.0-1 261 2301

S 1.5.0.0-1 260 2300

官情報第ニ三九八號
昭和十五年七月五日

昭和十五年七月六日

警視廳官房主事

貴族院ニ於ケル新党態度ニ就テ

近衛公ヲ中心トスル新政治体制ニ對スル貴族院各
派ノ態度ニ就テハ先頃火曜會、一部ガ迅速ク新
政治体制ニ參加ノ空氣ヲ見セタガ近衛公、新党性
格其他ガ明瞭トナラサル為メ其、儘發展ヲ見セ
ズ其他ノ研究公正交友同成同等ノ各派ハ表
面靜觀ヲ持スモ内面、動搖ハ有爵議員ニ表ハシ
ツアリ、研究會ニアリテハ表面尚靜觀ヲ装ヒツ
、アルモ所屬議員ニ有馬頼寧伯ガアリ、近衛公
ノ新党性陸ニ參画シ中心ノ活動ヲ爲シツ、アル為
内面ニハ不安動搖アリ、新政治体制確立後、貴族
院ニ對スル影響ハ當然免レズ、或ハ直キニ貴族院
改革ノ烽火ガ揚リ有爵議員ハ貴族院全体トシテ

S 1.5.0.0-1 262 2302

五十名位ニ縮少サル、マ、虚レアリトシテ、積極的
ニ反對ノ意ガ強ク働キツ、アリ、殊ニ有馬伯ニ對ス
ル反感ハ相當強ク、有馬伯ガ研究會ニ殆ンド出
席セザル為メ有馬伯、實弟タル子爵議員松
平忠壽ニ對シテハ露骨ニ有馬伯、新党活動
ヲ抑制セシムベク働キカケツ、アル、状勢ナリ

S 1.5.0.0-1 263 2303

秘書官
官情報第二四。〇。第

昭和十五年七月四日

警視廳情報課長

民政黨晚餐會開催ニ関スル件

管轄

民政黨ニアリテハ本日午後六時ヨリ九ノ内常
盤家ニ於テ有志晚餐會ヲ開催

出席者ハ

作田高太郎、工藤安雄、豊田豊吉

野田文一郎、野村嘉六、山本厚三

等計十二名ニシテ

一同晚餐ヲ俱ニシタル後別室ニ移リ、

新党問題ヲ中心トシテ時局問題ニ関シ

一同隔意ヲキ意見ノ交換ヲ行ヒ午後八

時三十分散會セリ、

2304

S 1.5.0.0-1

264

官情報 第三九七號

昭和十五年七月五日

警視廳官房主事

昭和十五年七月六日



官吏制度改正問題審議見送ニ就テ

官吏制度改正案ニ対スル貴族院各派有志及新聞社方面ニ於ケル見送シ左ノ如シ

昨日樞密院ニ於ケル官吏制度改正委員會ハ政府側ノ提案説明ニ對シテ石塚英藏、南弘、西顧問官ヨリ質疑アリテ政府ハ身分保障令撤廃案ヲ先順ニ審議方ヲ希望シ午後三時二十分政府側ノ退席ヲ見タモトアルガ、樞府側各委員ハ政府退席ノ後ヲ亨ケテ任用令改正案外七件ノ審議順序ヲ協議シタル結果官吏身分保障令ヲ審議ノ都合上最後ニ廻スコトハシテ散會シタモトアル

政府ハ官吏制度改正中身分保障令撤廃案モ政府通過疑無シトハ見テ居ルガ萬一各改正案が停頓シタ

トシテモ、身分保障令ノミハ政府ノ面目上其ノ通過ヲ期シテ居ル様デアル 然ルニ樞府側ニ於テハ官吏身分保障令ノ撤廃ノ是非ニ對シテ、多クノ疑義ヲ有シ殊ニ審議委員ハ全部賛成デハナイコトが窺ハレルデアル 以上、空氣が樞府全体ヲ支配セントシ政府ノ希望ヲ一蹴シテ身分保障令撤廃ヲ最終審議トシタモトデアルカラ審議引延シヲ策シナイトモテモ特ニ審議進捗ヲ見ルコトハ困難デアル 然シ身分保障令撤廃案ヲ以テ政変ノ原因トナスノ責任ヲ樞府ハ負イタクナイデアラウカラ、今後政局ノ動向ト睨ミ合シテ審議ヲ遷延セシメ末期的ナ米内々閣が他ノ原因ニ因リ政変トナルコトヲ暗ニ期待シテ居ルトスル觀測が強イト觀ラレル

265 2305

S 1.5.0.0-1

S 1.5.0.0-1 266 2306